



申7号「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」団体交渉実施！～その③～

⑥設備部の各ユニットは安全第一で業務を行える要員体制を整え、見張員の教育・訓練を充実させること。

確認事項 他のユニットから見張員の配置は基本的に行わない。

作業は安全優先で行い、見張員の教育・訓練を今後も行っていく

組合：見張員の配置について、他のユニットから要請することがあるのか明らかにすること。

会社：エリア現地調査において、合同で調査することがある。例えば建築・土木・信通等である。その際、見張員を配置するが、ユニットを超えて配置する場合がある。なお、基本的には関係するユニットの社員から見張員を配置する。いわきエリアでは現地調査で保線1名・電力1名等の場合もある。その際はどちらかが見張員を行うこととなるが、関係するユニットの社員が担うこととなる。

組合：全国的に退避遅延が発生していることから、作業は安全優先で行うこと。また、見張員の教育・訓練を充実すること。

会社：安全優先は強く指導している。今後も教育・訓練は定期的に行っていく。

⑦大規模輸送障害等の異常時において、各事業本部は安全な作業体制を整え、早期の復旧をめざすこと。

確認事項 異常時の体制を強化し、安全な作業体制を整える。

組合：大規模輸送等が発生した場合の対応について明らかにすること。

会社：指令サービス品質ユニットが配置される水戸事業本部に対策本部を設置し、必要により現地対策本部を設置する。事業本部を超えて連携して対応することとなる。

組合：大規模輸送障害の際、交代要員が確保できず、休憩も出来ずに対応する組合員・社員がいる。融合と連携というが、専門知識が必要な業務は限られた人しか業務を担えない。改善を図ること。

会社：今後は企画業務を担っている社員が現場第一線で働くこととなる。働きやすさと異常時対応能力は向上する認識である。

⑧各事業本部は安全に関する修繕費の削減を行わないこと。

確認事項 安全に関する修繕費の削減は行わない。

組合：安全に関する修繕費について、考えを明らかにすること。

会社：コロナ禍でも安全に関する修繕費削減を行っていない。安定やその他に関わるコストダウンは行ってきた。コストダウンは引き続き行うが、安全に関わる修繕費は確保していく考えである。

組合：水郡線のドアベルト故障では、コストダウンのメニューの1つで修繕期間延長が行われた。今回の事象を教訓に安全に関わる修繕費削減は行わないこと。

会社：安全に関わる修繕費は確保する考えである。

組合：倒木や倒竹、除草や環境整備の予算について明らかにすること。

会社：倒木や倒竹は毎年予算を増やして対応している。除草は駅間はパートナー会社での除草、駅は統括センターで除草を行っているが、予算がついたので駅の除草は減少傾向である。階段敷設をはじめとした環境整備など全て安全に直結する。今後も対応できるものは行っていく考えである。

⑨地域総合職への移行に伴い、入社済の組合員を県単位による運用に移行することについて丁寧に説明し、組合員の理解を得たうえで、本人希望を把握し実現すること。

確認事項 本人希望を把握していく。

組合：県単位運用の考え方について明らかにすること。

会社：県単位運用については、社員周知を行ったうえで本人の希望を確認したところであり、段階的に県単位での運用へ移行していく。なお、社員の成長意欲に応え、他都県の事業本部や本社等へ異動になることもあって考えている。

組合：福島県を選択すると福島事業本部への異動を懸念する組合員がいる。考え方を明らかにすること。また、組合員の理解を得た上で、本人希望を把握し、実現すること。

会社：基本的には水戸支社で採用されているため、浜通り事業本部となる。なお本人の人生設計や家庭状況を鑑みて採用されたベース以外でも業務は可能である。希望を把握した上で決定していく考えである。